

マルワリードII用水路全体の傾斜は比較的急だが、一部に設計上緩やかにせざるを得ないところがある。水位が上がるので、その分余裕高を上げて補う。逆に流速が増して急流を作るところは床を保護するため、石やレンガを使って凹凸をつけ、粗度係数を増やして緩やかな流れにする。写真は3.2 km地点のサイフォン前。
2018年7月18日



同上、サイフォン下流側。植樹が行われている。2018年7月18日



用水路 3.3 km 周辺（調節池Ⅲの場所）の現在。河の増水はあるが、排水路末端はまだ河よりも水位が高く、逆流は起きていない。湿地が公園に置き換わっている。
2018年7月17日



旧タラン取水路に伴う湿地は消失し、新設のタラン分水路（約 1.2 km）に置き換わっている。2018 年 7 月 17 日



同調節池IVから上流側を望む。カチャラIII分水路は 1600m 地点で分かれ、約 1.6 kmを主幹水路に沿って走る最長の分水路。2018年7月17日



用水路末端の最終仕上げ。ベラ村にとって画期的で、多くの畑が既に準備されて、灌水を待つ。高価な汲み上げポンプと慢性の飢餓状態とはお別れだ。
2018年7月19日



人里らしくなっていくベラ村。ベラ村の回復地は広大、約 250 ヘクタール以上と見ている。待っていたかのように、利用できる畑という畑は、至る所で耕作され、トウモロコシが大量に植えられている。2018 年 7 月 19 日



堤防 5.5 km地点。洗堀の激しい水制先端の補修。2018 年 7 月 20 日



左岸 7.0 km地点。前後で著しい浸食が観察される。対岸（左岸）下流はミラーン堤防。2018年7月20日



右岸ミラーン堤防側よりベラ村の7 km地点を望む。川幅が最も狭まる場所（約 150m）に当たり、激しい浸食が起きている。ミラーン側も急流で、かつて浸食が激しく、2015 年夏に洪水被害を出した。この時は左岸上流で分流が発生（4.8 km地点）、この部を通過する水量が半減し、ミラーン側が助かっている。2016 年分流閉塞が行われると、この7 km地点周辺で浸食が起き、約 50m の河岸線後退が観察されている。2018 年 7 月 16 日



ミラーン側の護岸状態（ミラーン護岸約 700m 地点）。PMS の「埋設水制方式」で現在安定している。カチャラ=ベラ側も、ほぼ同様の構造の護岸をめぐらしながら、工事が進められてきている。2018 年 7 月 14 日



ミラーン取水口側から見た上記の護岸。昨年まで補強が必要だったが、安定している。川面のヤナギが美しい。2018年7月16日



砂州 I 下流部の護岸。カマ第二堰の連続で、全体が石材で強化されている。2018 年 7 月 16 日

